



## 第2回自然と親しむ子ども山登り教室がいよいよ始まりました

昨年に引き続き、第2回目となる「自然と親しむ子ども山登り教室」が4月から始まりました。説明会の後、第1回目の陣馬山、第2回目の大岳山と実施し、子どもたちに山のすばらしさや厳しさを味わってもらいました。今年 - も、昨年と同じく2人だけの参加でしたが、自然が大好きな小学5年生の女の子と小学4年生の男の子です。安全に最大限に気を配りながら、楽しく登山を進めていきます。

### 説明会(4月5日)報告

参加者 小5の女子と小4の男子他合計5名  
スタッフ7名、会員1名

内容は、登山教室の進め方、運営体制、登山に伴う危険と回避方法、山道の歩き方、登山装備、登山の食料、パッキングの仕方、読図の基礎、気象の基礎、登山日程の説明を行った。

今回の登山教室への参加予定者は、小学4年生の男子と小学5年生の女子、そして中学1年生の男子の3人となった。(最終的に小学生2人となりました)

第2回自然と親しむ子ども山登り教室の説明会を実施した。

当初、八千代市内で実施する予定だったが、参加希望の方が全員東京都のため、池袋にお住まいの参加者の親御さんから場所を確保していただき、池袋の区民集会室で実施した。



### 陣馬山(4月20日)報告

参加者 小5女子1名、小4男子1名  
スタッフ7名  
別働隊 スタッフ(3名)  
会員(障害者3名、健常者4名)

今日は、「第2回自然と親しむ子ども山登り教室」の第1回目、陣馬山登山だ。天気は曇っているが、時折日もさしまずまの天気だ。高尾駅でJRに乗り換えたが、電車は満員だ。藤野駅でもかなりの人が降り、予定のバスは満員

で入りきれないため、臨時のバスが出てくれた。全員、ゆったり座って終点で下車する。ここでトイレを済ませ、自己紹介をし、予定コースを説明する。体操は、別動隊で参加のTちゃんだ。ちょっと短めだったが、身体をほぐして出発する。



すぐにうち解けた子どもたち

周囲の春らしい風景に、子どもたちは歓声を上げる。こんな自然に囲まれて住みたいと言う、山好きから見ると、模範解答が飛び出す。こんなに自然を愛する子どもが増えたら素晴らしいのと思う。

桜の花弁が川の淵に溜まり、花いかだとなっている。きれいな模様を子どもたちも見て、喜んでいる。

登山道に入り、少し登った展望の良いところで休憩する。春らしい芽吹きや新緑が楽しませてくれる。足下には、タチツボスミレやヒトリシズカ、イカリソウが静かに咲いている。

山道をぐんぐん登っていくが、子どもたちは元気に話し合っている。あっという間に友だちになるところが子どもらしい。今日は、いつもにぎやかな女性メンバーも負けている。

芽吹きの木々を楽しみながら登り、稜線に出ると、山頂は近い。最後の階段を、YさんとTちゃんに導かれて、ぐいぐい登っていった。

11時30分に山頂到着。富士山は雲の中で見えなかったが、近くの生藤山や丹沢方面の山々が見えていた。白馬の前で記念写真を撮影し、風の来ないところで昼食タイムとする。山

頂周辺の木々は、まさに芽吹きはじめたばかりで、とても初々しさが漂っている。



山頂白馬の像の前で

時間的にはかなり遅れているため、山頂を後にして、明王峠に向かう。途中、ミツバツツジの群落があり、とてもきれいだった。明王峠は桜が満開だった。峠からさらに下ると、石投げ地蔵に到着。石に埋まったお地蔵さんに、子どもたちは手を合わせていた。説明看板を、小4の



石投げ地蔵に手を合わせる子どもたち

K君は、しっかりと読んでいる。学校で習っていない漢字まで読めるそうだ。矢の音を過ぎ、大平に到着。ここは古い小屋の跡だ。この頃から雨がぼつりぼつりと降り出す。相模湖がよく見えるベンチで、雨具を付ける。Jちゃんの赤いカップ、K君の青いカップ、そしてMさんの黄色(黄緑)のザックカバーが並んで、信号機だという。大人も子供心に帰って一緒に楽しむ。与瀬神社の手前は、急な下りだ。岩混じりのところは、ザックの重いK君の手を引いて下る。Jちゃんは、1年の長かしっかりと歩いている。ようやく与瀬神社に到着し、神社にお参りし、

トイレを済ます。子どもたちと最年長のTさんは、ヤクルトとカルピスウォーターで乾杯だ。

神社を後にし、相模湖駅に予定より1時間遅れて到着した。帰りの電車も子どもたちは、疲れを知らずに遊び合っていた。第1回目の登山でだが、すっかりうち解けた子どもたちに、心

## 大岳山(5月18日)報告

参加者 小5女子1名、小4男子1名  
スタッフ6名  
別働隊 スタッフ(2名)  
会員(障害者1名、健常者1名)

今日は午後から晴れる予報だが、雲が多くどうも晴れそうにない天気だ。

武蔵五日市からバスに乗り、大岳鍾乳洞入口で下車する。ここで、準備体操などを行って、出発する。オオルリの声などを聞きながら、しばらく車道を歩き、鍾乳洞で休憩し、トイレを済ます。ここからさらに舗装道路を歩く。水量は少ないが、落差の大きな4段の滝がかかり、白糸のような水流で落下している。道路脇の沢も、なかなか迫力がある。

しばらく行ってから、登山道に入る。昨夜雨が降ったのだろうか、登山道の石や岩が濡れていて、注意が必要だ。すぐに大滝にぶつかる。こちらも落差が大きく、激しく水が流れ落ちていた。その脇を登っていく。滝の落ち口にある栈道に注意しながら無事に通過する。まずは一安心だったが、滑りやすい石混じりの道や栈道が続く。先頭のKさんが渡った栈道にK君がさしかかった時、滑って1m程、落ちてしまった。すぐに私も下に下りて、通りがかった方の協力もいただきながら、K君を栈道の上に引き揚げ、栈道を渡ってもらった。この栈道は非常に滑り

強さを感じた。お疲れさまでした。

## コースタイム

和田(9:50) ... 登山口(10:05) ... 陣馬山(11:30-12:25) ... 矢の音(13:55-14:00) ... 与瀬神社(15:25-15:35) ... 相模湖駅(15:50)

やすく、Jちゃんや後続の人たちも心配なので、ロープを固定して、それに自己確保を取って通過してもらった。

ここから先は、これほど滑りやすいところではなかったが、今まで以上に慎重に登る。沢音の中に、ミソサザイのにぎやかな声がこだまする。すぐ近くに来て囀ってくれたこともあった。

登山道は、沢筋を離れ、稜線に向けて次第に急登になっていく。木々の新緑が美しい。途中で良いところがないので、稜線まで登り着いたところで、遅い昼食とした。Hさんがおにぎりを転がしてしまう。Hさんはお湯を沸かして、K君の持ってきたみそ汁を作ってあげた。



ここからはしばらく歩きやすい稜線を行く。目に鮮やかな新緑を楽しみながら進む。斜面を横切るトラバースに入ると、右側が切れているので、子どもたちの様子を見守りながら歩く。栈道も一部にあったが、無事に大岳山荘に到着する。ここから大岳山への往復だ。ザックをデポして、空身で登る。途中から滑りやすい岩場が出てきたので、慎重に登る。こんな岩場は、J

ちゃんもK君もはじめての経験だろう。少し怖がっていたが、適切なサポートで順調に登り、山頂に到着した。雲が広がっていて、残念ながらあまり展望は良くなかった。山頂標識のところでは、みんなで代わる代わる写真を撮り合う。JちゃんもK君も写真を撮ることも好きだ。



大岳山頂にて

もっとゆっくりしたかったが、時間が迫っているため山頂を早々に後にする。下りは一層慎重に、一步一步確実に足をおいて下りる。大岳山荘に着いたところで、Hさんからコーヒーを湧かして振る舞っていただく。

ここからは、これまで以上に厳しい岩場が現れたが、しっかりとサポートをすることで乗り

きり、御岳山に続く広い道に出た。K君は、御岳山の山頂、奥の院に行きたがっていたが、今回は時間をオーバーしているため、次回の楽しみに取っておいてもらう。新緑の美しい道が続く、オオルリやセンダイムシクイが元気に鳴いているが、ケーブルの駅まではまだまだ遠い。樹齢350年という天狗の腰掛杉の大きさにビックリする。長尾平展望台の近くから登ってきた大岳山が遥か遠くに見えていた。今日は長い行程を本当に頑張ったと思う。少し行くとコンクリートの道になる。御岳神社の石段の下でお参りをして、無事に着いたことを感謝する。コンクリートの道を頑張って急ぎ、ケーブルの駅に到着し、すぐに発車するケーブルに乗り込んだ。満員のお客さんと共に降り、滝本からはバスで御岳駅に向かった。

#### コースタイム

大岳鍾乳洞入口(10:10) ... 大岳鍾乳洞(10:40-10:50) ... 大滝(11:20) ... 稜線(13:05-13:30) ... 大岳山荘(14:05) ... 大岳山(14:25-14:35) ... 大岳山荘(15:00-15:20) ... 御岳山ケーブル駅(17:05)

### 自然と親しむ子ども山登り教室感想文(第1回陣馬山)

私は山仲間アルプではじめて山に行ったせいかとても楽しかったです。

障害は関係なく楽しく歌を歌ったりかんちゃん(かんとろう)(きんとろう)といっぱい話ができ楽しかったです。1ばんはこの世2はんはあの世と決めたのがおもしろかったです。と中でおじぞう様のせつめい文を読んでいたかんちゃん(かんとろう)(きんとろう)はすごいなあと思いました。

ちょうど馬の像が建っていたので、かんちゃん(かんとろう)(きんとろう)といっしょに写真を撮りました。楽しかったです。 J.Nさん

今回の陣馬山は、お父さんが水の重しを3リットルも入れたので、辛かったけど楽しかったです。実は、ぼくのお母さんも十年以上前、陣馬山に登ったことがあると聞いたので、不思議に思いました。その陣馬山頂からは、相模湖や遠くの山が見え、すごくきれいでした。帰りに与瀬神社という神社におさいせんを払ったら、みなさんに信心深いといわれました。

K.K君

## 山行報告

### 四阿屋山(3月9日)

参加者 会員(障害者2名、健常者12名)

三峰口からタクシーで堂上まで向かう。堂上のセツブンソウ自生地は、セツブンソウまつりで大混雑だった。それでもまだ咲き始めて間もないセツブンソウをたくさん楽しめた。以前、見られたアズマイチゲは咲いていなかった。時期が早かったのだろうか？



可憐なセツブンソウ

写真撮影などをして、車道を押留まで歩く。途中、フクジュソウがたくさん咲いている民家があった。押留の登山道に入ったところで、自己紹介など挨拶をする。

今日は、素晴らしい天気ではかばか陽気、腕まくりをして登りはじめる。周囲は杉の植林地帯、花粉症の人には辛いところだ。しばらく登ると、開けた場所にロウバイがたくさん植えられていた。ここが山居。フクジュソウや秩父紅という花卉が赤いフクジュソウも咲いていた。少し早い、ここで昼食タイムとする。この付近には、野鳥のツグミやジョウビタキが多かったが、イカルも見られた。ロウバイの甘い香りを存分に楽しみ、コーヒーを飲んで、山頂に向かう。フクジュソウ自生地を過ぎ、両神神社奥社から、

岩場の続く厳しい道となる。鎖に掴まって慎重に登る。下りてくる人とすれ違う時は、一層気を使う。ほんの少し凍っていたところがあったが、軽アイゼンを付けるほどでもなく、順調に登り、山頂の一画から痩せた尾根を登って山頂に立つ。山頂からは、両神山が間近に見える素晴らしい展望だ。ウサギの耳のような二子山もよく見える。山頂から落ちないように気をつけて、集合写真を撮る。



両神山頂にて

下りは一層慎重に下るが、以外と早く危険地帯を通過し、両神神社に着いた。杉花粉の影響で、何度もくしゃみをしている方もいた。ここから沢井方面に下る道を行き、途中から薬師堂への道に入った。植林地帯や雑木林を行ったり来たりしながら下っていくと、菖蒲園のある公園に下り立つ。ここでトイレを済ませ、薬師堂のバス停まで歩く。少し遅れたため、薬師の湯はあきらめて、バスに乗車して三峰口に向かった。春爛漫の低山で、早春の妖精たちを楽しめた一日でした。

### コースタイム

堂上(10:45) ... 押留(11:05-11:15) ... 山居(11:45-12:40) ... 四阿屋山(13:30-13:40) ... 両神神社奥社(14:00-14:10) ... 薬師堂(15:25)

## 高川山(3月16日)

参加者 会員(障害者4名、健常者11名)  
会員外(障害者2名)

明け方は曇っていたが、次第に晴れて、春らしいっすら霞がかかったような天気となった。初狩駅の前から、今回は総勢17人で歩き始める。線路の下のトンネルを抜け、林道をしばらく歩く。背後に見えていたのは滝子山かと思う。

昔、椎茸のほだ場だったようなところから、少し行くと登山道になる。やや急な道を登っていくと、男坂と女坂の分岐に到着。今回は、女坂を登る。まだ北側斜面には、雪が残っているかも知れないと思ったが、もうすっかり溶けたようで、乾いた落ち葉がかさこそと気持ちよい音を立てていた。



日だまりの中を汗ばみながら登っていく。男坂との合流付近から、真っ白な富士山が見えた。大きな塔の立っている三ツ峠山も見えていた。

合流点から少し登り、尾根の上に出ると、山頂まであと10分の標識がある。緩やかな尾根

## ミツバ岳(3月23日)

参加者 会員(障害者3名、健常者9名)

から最後の登りを頑張ると、山頂に飛び出した。山頂は、360度の大展望。富士山、三ツ峠山、滝子山や大蔵高丸方面の小金沢連嶺、雁ヶ腹摺山、そして御正体山など、春の日差しと杉花粉を一杯浴びて、山頂での一時を過ごす。以前来た時にいた犬は、今日もいた。



山頂からは、禾生駅方面に下る。途中、ジグザグの登山道を下り、田野倉駅方面に下る道を通り、沢沿いの道となる。ミソサザイが囀っていた。今年はじめて聞く声だ。ヒガラの囀りも聞こえたが、今回は、越冬したヒオドシチョウやルリタテハなどのタテハチョウをたくさん見かけた。黄色い蝶は、モンキチョウだろうか？鮮やかな黄色が落ち葉の中ですべて目立った。

林道に出て、禾生駅を目指して歩く。一面を青く染めていたオオイヌノフグリの群落や咲き始めたばかりの梅を楽しみながら、ぽかぽか陽気の中、予定どおりの時間に禾生駅に到着した。

### コースタイム

初狩駅(9:40)...男坂女坂分岐(10:30-10:35)...  
男坂女坂合流点(11:05)...高川山(11:30-12:15)  
...禾生駅(14:05)

新松田駅から西丹沢自然公園行きのバスに  
乗車して、浅瀬入口で下車する。ここには歩道  
のスペースしかないため、長いトンネルを抜け、  
世附大橋手前で自己紹介をする。今回は、ちば  
民報社さんから取材でSさんが同行する。今回  
のミツバ岳への登山道は、地図に書かれていな  
いため、みんなで読図をしながら進む。道端に  
は、タチツボスミレやフデリンドウが咲いてい  
た。フサザクラやキブシ、ウメが咲き、アブラ  
チャンと思われる木も花を付けていた。



滝壺橋を渡ったところから、登山道が付けられ  
ていた。予想以上に非常に急な道だった。右手  
の沢に急角度で落ちた脇を登るため、慎重に歩  
いてもらう。地図に道は書かれていないが、し  
っかりした道だ。鹿除けの網の脇を通り、暗い  
杉林を登っていく。看板のある少しなだらかな  
ところに出て、ここで休憩する。樹林の間には、  
丹沢湖が見えていた。この付近から上の杉林は  
手入れされている。チェーンソーで木を切り倒  
している人たちがいた。ミツマタもようやく現  
れてきた。さらに登ると、雑木林に変わった。  
あふれるほどの日差しが降り注ぎ、とても気持  
ちがよい。ジグザグに登っていくと、傾斜が落  
ち、山頂の一画に到着した。雪を抱いた丹沢の  
主脈が見え、反対側には富士山も見えてきた。  
すると、目の前には素晴らしいミツマタが現れ

た。咲き始めて間もない旬のミツマタは、黄色  
が鮮やかで美しい。山頂では、ミツマタに囲ま  
れて少し遅い昼食タイムとする。



ミツマタの前に記念写真を撮ろうと西側に行  
くと、富士山がよく見えた。このミツマタは  
満開で素晴らしい。去りがたい気持ちを抑えて、  
1時間休憩の後、下山にかかる。広い山頂付近  
からの下り道は、赤テープがたくさん貼ってあ  
るので、分かりにくいのが、やや左寄りに下っ  
ていくと登山道がはっきりしてきた。下りは早い。  
雑木林から杉林へと順調に下っていく。登りの  
時に休憩したところで、休憩していると、下か  
ら捜索隊の人が二人上がってきた。何でも、道  
に迷った二人連れから通報があり、探しながら  
登っているところらしい。私たちは、山頂で4  
人くらいのパーティーに会ったが、迷った様子  
もなく、下っていったように思っていた。もし  
かしたらこのパーティーだったのかも知れな  
い。話は全く違うが、捜索隊の方が、この山は  
持ち主の人は鷹ノ巣山と読んでいるそうで、ミ  
ツバ岳は誰かが勝手に付けた名前だと言っ  
ていた。

ここから急な下りとなるため、男性陣がサポ  
ートを行い、慎重に下る。滝壺橋に下り立つと、  
パトカーが1台止まっていた。

空はすでに、曇り空となってきた。喉を潤し  
たくて、丹沢湖のバス停まで行くことにする。  
予想がぴたりと当たり、バス停の近くの店屋さ  
んに、美味しいジュースが売っていた。

新松田駅で解散し、ホームに行くと、降りる

駅が分からなくなってしまった男の子が1人で困っていた。記者のSさんと、Yさん、Aさんが残り、子どもを無事、目的地への電車に乗せてあげてくださった。

ミツバ岳の山頂のミツマタは、山の持ち主の方が植えたものだそうだが、たくさんのミツマタが見事に咲いていました。ミツマタのない時

## 破風山(4月13日)

参加者 会員(障害者3名、健常者5名)

西武秩父駅から歩き、御花畑駅に来ると、かなり混んでいた。ただ、皆野の駅で降りる人は少なく、すぐ駅前のタクシーに乗り込む。棕宮橋は、「むくみやばし」と読むそうだ。



棕宮橋でタクシーを下車し、しばらくは車道を歩く。山麓の桜ヶ谷周辺は、今にも降り出しそうなどんよりとした雲の下でも、桜やいろんな木々の花で、とても華やかで美しかった。山道に入ると、今度はいろんなスミレが楽しませてくれる。ノビルも群生していて、今晚のおかず少し採集した。山頂を巻いて札立峠に行く道を見送り、山頂直下の休憩舎に着く。ここには、20人近い人たちが、にぎやかに休憩していた。そこをそのまま通り過ぎ、山頂へ向かう。山頂への道は、少し岩場もあり、切れているため慎重に進む。ミツバツツジがきれいなピンク色で咲いている。山頂は狭く、ゆっくりできないの

期は何の変哲もない山ですが、この季節はお勧めの山となりました。

## コースタイム

浅瀬入口(10:35)...世附大橋(10:45-11:00)...滝壺橋(11:25)...ミツバ岳(12:50-13:50)...滝壺橋(14:50)...丹沢湖バス停(15:20)

で、休憩舎まで引き返すことにする。



休憩舎で、ゆっくりお昼を食べ、来た道を引き返す。山頂を通らない巻きみちを使って、札立峠まで行く。見上げると、尾根から見えたミツバツツジが見えた。巻き道から尾根上に出ると、ミツバツツジがたくさん咲いていた。ツツジの脇で記念写真を撮ったりしながら下ると、札立峠に到着した。ここには、小さなお地藏さんが佇んでいた。

峠からは、ジグザグの道を下り、さらに下ると、沢沿いの道になる。所々滑りやすい岩があったが、慎重に下っていくと、水潜寺が見えてきた。この光景を見ると、過去に2回くらい来たことがあることを思い出す。水潜寺は秩父の34番札所だ。全ての札所を巡回したNさんは、来る時の車中で、これまでに溜めた全ての札を見せてくださった。

由緒ある寺を過ぎ、車道に出る。ここから約2kmくらいで薬師の湯があるというので、車道を歩いて下った。気持ちの良い温泉に入り、予定どおり16時14分のバスに乗車して皆



野の駅に向かった。

## コースタイム

### 生藤山(4月27日)

参加者 会員(障害者4名、健常者13名)

武蔵五日市に向かう電車の窓に雨が当たり、好天になるのが遅れているのではないかと心配になる。ただ、五日市に近づくとつれて雨は止み、曇り空となった。

武蔵五日市のバス停には、大勢の登山者が並んでいる。私たちは、増発便に乗り、立って上川乗まで行くことになった。

上川乗から車道を歩き、途中の駐車場から登山道に入る。ヤマブキが多く、今が盛りと咲き誇っている。足下にはタチツボスミレやヒトリシズカが咲き、頭上ではコガラやヒガラなどの囀りがこだまする。ジグザグの道を登り、山腹をトラバースしていくと、浅間峠に到着した。ここにはベンチがあり、休憩には良いところだ。

峠から歩き始めると、すぐにヒトリシズカが群生していた。たくさんあると、「一人静か」というより、こちらのパーティーと同じ「大勢にぎやか」という感じである。ナガバノスミレサイシンやアケボノスミレ、エイザンスミレなどもたくさん咲いている。



水滴の中に咲くミツバツツジ

棕宮橋(9:50)...破風山(11:25-11:30)...休憩舎(11:40-12:20)...札立峠(12:35)...水潜寺(13:30-13:40)...満願の湯(14:05)

お昼は熊倉山でと思ったが、みんな空腹に勝てず、シャリバテ気味だ。山頂手前の少し広いところで昼食とする。ここからは階段の急登だったが、すぐに山頂に到着。ヤマザクラやミツバツツジが咲き、楽しませてくれる。

熊倉山からは、3回ほどアップダウンを繰り返して、両側の切れた細い尾根を通過すると、生藤山への最後の登りにかかる。今までとは違って変わって、岩混じりの急登だ。しかし、ここも5分ほどで終わり、登り切ったところが山頂だった。残念ながら山頂は霧の中で、展望は得られなかったが、ここもミツバツツジが美しかった。



生藤山頂にて

山頂からは、登ってきた急な道を下り、三国山を巻いて下山にかかる。有名な生藤山の桜並木に着き、何人かが甘草水を飲みに行く。私も飲んだが、今、地図を見てみると、飲用不可だそうなの？ でも、今のところ大丈夫です。ヤマザクラなどがきれいに咲いている。満開を少し過ぎたかも知れないが、まだまだ楽しめた。

ここからさらに下って、佐野川峠から尾根を外れて、ジグザグの道を下っていく。ここもヤマブキがたくさん咲いていてきれいだった。シシシ...というヤブサメのさえずりも聞こえた。林道を横切り、さらに登山道を下り、車道を歩

いていくと、石楯尾神社のバス停に到着した。Nさんからリクエストがあり、Yさんに整理運動を指導していただく。首から肩を重点に実施し、軽くなったように感じた。春の山で、芽吹きと新緑、春の花、そして鳥たちの歌声を楽しんだ1日でした。

## ドンデン山(5月10日～11日)

参加者 会員(障害者2名、健常者14名)

5月10日

小雨が降る中を東京駅から新幹線に乗り、新潟駅に向かう。この新幹線は、東京駅から新潟駅までノンストップだった。

新潟駅からバスで新潟港に行き、そこからフェリーで両津港に向かう。曇り空で寒いが、雨は降っていない。2時間半をかけてのんびり行くフェリーの旅は、ジェットfoilでは味わえない旅の情緒がある。船を追うカモメに餌をやる人たちもいた。

港には、宿の方が迎えに来てくれていた。5年前にお世話になった親父さんは、3年ほど前に交通事故で亡くなってしまったそうだ。ご冥福をお祈り申し上げます。

宿の方の温かいもてなしで、トキセンターを訪れ、夜は食べきれないほど多く、種類も豊富な美味しいごはんをいただいた。

5月11日

朝食をいただいた後、ドンデン山の登山口までマイクロバスで送っていただく。曇り空だが、空は明るく雨の心配はなさそうだ。登山口で下ろしていただき、アオネバ溪谷を歩き始める。早速、ニリンソウが出迎えてくれるが、まだ花の数は多くない。シャガやオオイワカガミが現れる。空は曇り空だが、青空もちらほら見え始

## コースタイム

上川乗(9:55)...浅間峠(11:25)...熊倉山手前(12:25-13:00)...熊倉山(13:10-13:15)...生藤山(14:00-14:15)...佐野川峠(15:10)...石楯尾神社(16:00)

める。次第に日が差しはじめ、林の中が明るくなる。オオルリやツツドリの声も聞こえた。



初々しいシラネアオイ

ハウチャクソウやタチツボスミレ、ヒトリシズカなどが見られ始めたが、お目当てのシラネアオイはまだ見られない。というよりも、すでに花が終わっているものが見られた。今年は温かくて花の咲くのが早かったのかなと心配になったが、ちらほらとシラネアオイの花が見られ始めた。良かったと思っていると、次々に現れ始める。そのうち、どこを向いてもシラネアオイが目に入ってくるようになる。エンレイソウやザゼンソウも咲いている。シラネアオイとニリンソウは、とぎれることなく咲いている。傾



尻立山山頂にて(背後は金北山)

斜が落ち、緑が一層鮮やかになると、十字路(アオネバ峠)に到着する。ここは広いので、腰を下ろして休憩とする。この付近からカタクリの花も見られ始めた。キクザキイチゲも咲いている。

尾根の広い道を歩き、途中から舗装道路に出た。道路の脇には残雪も残っている。道路からは、金北山方面の展望が素晴らしい。空はすっかり晴れ上がって、海も見えるようになった。ドンデン山荘で、トイレを済ませ、テレビ中継塔のある最初のピークを越え、尻立山に向かう。タムシバの白い花がきれいに咲いている。



草原状のところでは、キジムシロが黄色い花を無数に咲かせ、目立たない白色でアマナもたくさん咲いている。尻立山に着いたが山頂は風が強くて寒いので、風の当たらない日当たりの良いところで、昼食とする。今回も、Mさんがお湯を沸かして、みなさんにコーヒーを振る舞ってくださった。暖かなコーヒーがとても美味しかった。

尻立山からは、気持ちの良い広い稜線を歩きドンデン池に向かう。行く手には金剛山が見え、

## 尾瀬アヤマ平(5月28日~29日)

参加者 会員(障害者1名、健常者8名)

5月28日

尾瀬戸倉で高速バスを降り、乗り合いタクシ

右手には真っ青な日本海が広がる。左手には金北山が見え、素晴らしいシチュエーションだ。

ドンデン池を見た後、山腹を巻き気味に十字路に戻る。カタクリが咲き乱れるところを過ぎ、林道を歩いていると、小さなオオミスミソウを見つけた。花の時期はそろそろ終わりだが、見つけた花はきれいに咲いていた。



十字路からは、待ち合わせの時間を考慮して、休憩せずに来た道を下った。朝は、あまり花が開いていなかったニリンソウは、日を浴びて、みんな開いている。15時ちょうどに登山口に到着し、宿の方から港まで車で運んでいただく。

帰りは、ジェットfoilで新潟港に向かう。真っ青な海を1時間で運んでくれる。波の上をカモメが滑るように飛んでいた。

## コースタイム

5/11 ドンデン登山口(8:05) ... 十字路(10:00-10:20) ... ドンデン山荘(11:05-11:15)...尻立山(11:35-12:10)...ドンデン池(12:30)...十字路(13:20-13:30) ... ドンデン登山口(15:00)

ーに乗り換えて、鳩待峠に向かう。車窓からの新緑が美しい。ムラサキヤシオツツジも咲いている。空を見ると、太陽に美しい暈がかかっている。薄日の差す天気だったので、絹層雲にできた暈だろう。天候悪化の前兆だ。

鳩待峠では、Yさんが、トマトやウインナー

など具の豊富な美味しいスープを作ってください。ほどよい酸味のスープで体が温まり、アヤマ平に向けて出発する。

最初だけはやや急だが、次第に傾斜は落ちてくる。ブナの木に付けられた赤ペンキは、5m程上にある。冬はあの近くまで雪が積もるのだろう。登るにつれて、次第に雪が増えてくる。降りてくる人たちは、この先、雪がたっぷりあることを教えてくれた。

傾斜が緩すぎて、標高はなかなか上がらない。途中、登山道の脇にあった雪の広場から至仏山がよく見えた。ここで、みんなで記念写真を撮る。

時々木道などが現れて、そこが登山道であることが分かるが、ほとんどが雪の上を歩くようになってきた。傾斜が緩いこともあり、軽アイゼンは付けずに行く。緩いながらも登っていくと、ようやく横田代に到着した。一面枯れ野原で寒々とした風景が広がる。行く手には燧ヶ岳が見え、振り返ると至仏山が大きく見えていた。足下の枯れ野原にも、シヨウジョウバカマが咲いていた。少し離れたところには、ミズバショウも咲いていた。他には、イワナシの花も見つけた。



アヤマ平の木道を歩く

ここまで来ると、もうほとんど登りはない。今回、最も標高の高い中原山(1,969m)を過ぎるとアヤマ平に到着する。ここは数十年前に踏み荒らしなどで、植物が育たなくなっていたが、尾瀬を守る人たちのおかげで、かなり回復してきたそうだ。いくつもの池塘が、広がっていた。

登山道が時折南側の斜面を巻くようになると、南側の山腹と林道が見えてきた。小さな湿原を過ぎ、竜宮十字路への登山道を分けると富士見小屋に到着する。小屋の親父さんが出迎えてくれた。

私たちが今年最初の泊まり客だそうだ。しかも、今日は貸切だという。小屋の美味しい食事をいただき、70歳を越えた親父さんの話を聞いたり、山の歌を歌ったりして、夜は更けていった。



富士見小屋での夕食風景

5月29日

夜半から、強い風が小屋に吹き付け、雨もかなり降ってきたようだった。天気が悪いことと、雪が深くて皿伏山から先のルートファインディングが難しいことから、予定を変更して、長沢新道を使って竜宮に下り、山ノ鼻経由で鳩待峠に戻ることにする。

朝食をいただき、軽アイゼンを付けて7時20分に小屋を出る。小屋の親父さんが雪の時だけ歩ける近道を教えてくださるというので、案内していただき、富士見田代まで登った。ここで分かれて、長沢新道に入って行く。ここもずっと雪道だったが、赤テープがしっかりと付けられて、迷わずに下れた。このルートは風下側になるので、風もほとんどなかった。

下ってくると雪が少なくなり、ブナの新緑が鮮やかになってくる。樹林の切れ目から下田代方面の尾瀬ヶ原が望めた。途中から沢沿いの道となり、なだらかに下っていくと、目の前が開け、一面にミズバショウが咲き乱れていた。コ

ースを変更したおかげで、見られた風景だが、やっぱり尾瀬に来たら、この風景に出会わないと、尾瀬に来た気持ちがしないなと感じる。雨が少し強くなってきたが、カッコウの声も聞こえ、気分はハイになってくる。リュウキンカなども見ながら歩き、竜宮小屋で休憩する。小屋の脇にはヤマザクラが咲き、ニリンソウも咲いていた。



下田代の一面のミズバショウ

ここからは、尾瀬ヶ原の中心ルートを歩く。さすがに今までと違って多くの人たちと行き交う。緩やかに蛇行する大堀川の畔にはミズバショウが咲き乱れ、写真に最適の場所だ。

扇山と明星ヶ岳は雨のため中止させていただきました。

## 講習会報告

### 岩登り技術講習会(鷹取山)(4月29日)

参加者 会員(障害者3名、健常者9名)

2008年度第1回目の岩登り技術講習会を鷹取山で実施した。

今回は、12名の参加で、岩登りをしない方3名も参加して、お昼の時間を楽しく過ごすことができた。講習は、最初3級から3級+くらいのところで実施し、登った後は、エイト環で懸垂下降を体験してもらった。岩場になれたと

牛首、上田代と過ぎ、山ノ鼻に到着する。ここで今日はじめてザゼンソウに出会った。山ノ鼻では、Yさんから今度はサラダをご馳走になった。Mさんからはコーヒーも湧かしていただき、みんな感謝の気持ちでいっぱいだった。

鳩待峠に登り、乗り合いタクシーで富士見旅館まで運んでもらう。ここは、富士見小屋と同じ経営だそう。旅館に着いたら、小屋でお世話になった奥様たちが迎えてくださった。温泉に入り、休憩室でくつろいでいると、親父さんも現れた。

雨で寒い一日でしたが、身も心も温まって、高速バスに乗り込みました。

### コースタイム

- 5/28 鳩待峠(13:20)...横田代(15:05-15:15)...  
アヤメ平(16:00-16:05)...富士見小屋  
(16:25)  
5/29 富士見小屋(7:20)...竜宮(10:00-10:10)...  
山ノ鼻(11:30-12:20)...鳩待峠(13:25)



「足はここにおいて」と指導が入る

ところで、上に手摺りのある垂壁に移動し、4級+から5級-くらいの岩場をみんなで登った。しかし、なかなか岩場に足で立つ感覚を掴めず、

最後には、下からお尻を持ち上げると共に、確保している人は、ザイルで引き揚げるといふ、本人の登りと合わせた3つの力を合わせて登り切った？

## その他事業報告

### 第5回定期総会(5月25日)

参加者 出席 22名  
書面委任 48名  
社員(正会員)総数(84名)の1/3  
以上の出席があり、総会が成立

2007年度事業報告、2007年度会計決算報告、

ここを自力で登りきった人は、この壁の一番左の垂壁にも挑戦してみた。私は、腕がパンプし、一度テンションをかけ、途中から中央にトラバースして、何とか登り切った。

監査報告、2008年度事業計画及び予算について審議が行われ、満場一致で承認された。

詳細は、総会議事録をご参照ください。

なお、総会当日は、希望者で午前中に馬事公苑散策、午後はロープワーク、総会終了後に懇親会を開催しました。

### 第15回ふれあいハイキング(手賀沼)(3月1日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)  
会員外(障害者1名、健常者5名)

暖かな春の陽気に恵まれて柏駅を出発した。街の中を抜けて柏公園の脇を通り、川の畔を歩いて柏ふるさと広場で休憩する。ここから先(すぐ近くの浄水場にもあります)は道の駅までトイレがないため、しっかりと用を足す。

早速、オオバンやモズなどの野鳥が迎えてくれる。ふるさと広場から歩き始めてすぐ、カワセミを一瞬だけ見かけたが、すぐに飛んでいってしまった。葦原には冬鳥のオオジュリンもたくさんいた。ホオジロやアオジ、ジョウビタキも見かけた。整備された道を、広々とした手賀沼を見ながら歩き、ヒドリ橋の手前で昼食にする。先程まで青空で日が差していたが、空には暗雲が立ちこめてきた。雨が降ることはないだろうと思うが、日が差さなくなって、少し寒くなってきた。

ヒドリ橋の下では、クイナやカイツブリが見

られた。釣りをしている人たちも大勢いた。歩いていると、ポツポツとだが雨が降り出してきた。しかし、ほとんど濡れることもなく、雨は上がってくれた。手賀沼の土手の下には、ホトケノザの群落が広がり、一面をピンクに染めていた。

道の駅しょうなんでトイレなどを済ませ、ゆっくり休憩する。買い物をしていた人たちもいた。ここから手賀大橋を渡って我孫子側に行く。風が強くなって歩きにくい。カワセミも残念ながら現れてくれなかった。



ここから、時間に余裕があったため、鳥の博物館に行くことにする。鳥の博物館では、いろいろな鳥の剥製があった。鳥の声も聞くことができ、

いろいろ楽しんでもらえたと思う。ここから手賀沼の畔を歩いて手賀沼公園に向かう。途中、



シジウカラヤツグミが近くに姿を見せてくれた。手賀沼公園で記念写真を撮って、我孫子駅に向かう。この頃には、雲もどこかへ行って、すっかり晴れ上がっていた。いろんな野鳥たちに出会えた一日でした。

#### コースタイム

柏駅(10:00)...北柏ふるさと公園(10:40-10:50)  
...ヒドリ橋手前(11:35-12:10)...道の駅しょうなん(12:45-13:00)...鳥の博物館(13:20-14:25)  
...我孫子駅(15:30)

### 第16回ふれあいハイキング(愛宕山)(4月6日)

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)  
会員外(障害者2名、健常者4名)

勧めで少し先の駐車場の下に行くことにする。

駐車場には車が一杯だったが、下の広場は、太陽がさんさんと降り注ぎ、とても気持ちがいい。ここで昼食にする。赤飯やトマトにキュウリの漬け物、切り干し大根などなど、家から持ってきてくださった料理などが振る舞われ、自分が持ってきたものを残さなければ腹に収まらないほどだった。5歳のK君は、長いローラー滑り台を楽しんでいる。

岩間駅で全員集合し、自己紹介をして出発する。岩間駅で待っていてくれた懐かしいSさんは、今日から入会して下さった。しかし、これから仕事があるということで、駅で別れる。

駅前の道路から、愛宕山がよく見える。しばらく道路を歩き、ジグザグに登りはじめる頃から山道に入る。階段を登っていくと、下の駐車場に飛び出した。満開の桜が迎えてくれて、一気に華やいだ。トイレの前で休憩する。タチツボスミレもたくさん咲いていた。白いスミレはマルバスミレだろうか？



桜群落の下を登っていくと、車道に飛び出す。車道脇にも桜やキブシが咲き乱れている。少し車道を登っていくと、神社に続く階段があった。急で長い階段にため息が聞こえたため、途中から脇道にそれて登ることにする。足下にはスミレの仲間がたくさん咲いている。登りついたところが愛宕神社で、ここが愛宕山の山頂だ。見晴は良いが、狭くて人が多いので、Sさんのお

昼食の後、桜の木の下で集合写真を撮り、南山展望台を目指して歩き始める。道は整備されていて、非常に広いハイキング道だ。ヤマザクラはまだつぼみで、開花が始まった程度だった。しかし、足下のタチツボスミレは見事だ。葉を落とした木々の上から、木漏れ日が登山道に降り注いでいる。のどかな一日だ。見晴台に立ち寄り、さらに進む。最後に急なところを登ると、

そこが南山展望台だった。展望台に登ると、筑波山も望まれた。隣の難台山もよく見える。R



君は、かなり疲れたようで、展望台まで登ってこなかった。今回は、今までのハイキングでー

### 第5回ミニハイキング(新川～印旛沼)(4月12日)

参加者 会員(障害者4名、健常者8名)  
会員外(障害者3名、健常者3名)

今日は素晴らしい天気恵まれた。勝田台からバスに乗り、終点のもえぎの車庫で下車する。ここで自己紹介をして出発。その前に早速ホオジロが姿を見せてくれた。

バス道路を離れると、菜の花畑があった。一面を黄色に染めてとても華やかだ。田んぼの中をゆっくり歩く。ツグミが目の前を通り過ぎ、上空ではヒバリが囀っている。新川の畔に出ると、釣り人がたくさん釣り糸を垂らしていた。どちらに流れているのか分からないほど緩やかな新川に沿って、まずは阿宗橋を目指す。土手には、ヒメオドリコソウやオオイヌノフグリが群落を作って無数に咲いている。ヒバリを見ていたら、上空にワシタカらしきものが飛んできて、ホバーリングをしている。私たちのすぐ上だ。近くに何か獲物がいたようだが、急降下せず、飛んでいった。帰ってから写真を見たが

番きつかったようだ。確かに、登山の要素もあったので、ちょっと厳しかったかも知れません。

南山展望台からは、来た道を引き返し、愛宕山の山頂はパスして、岩間駅に向かった。予定よりも1本速い電車に間に合い、SさんとTさんと分かれて、車中の人となる。のんびりとした春の一日を楽しみました。

### コースタイム

岩間駅(10:50)...下の駐車場(11:20-11:30)...  
愛宕神社(山頂)(12:00)...駐車場広場(12:15-13:05)...南山展望台(13:55-14:10)...  
岩間駅(15:50)

はっきりとは分からず。ハヤブサかチョウゲンボウのどちらかだろう。

阿宗橋でAさんとAさんの知り合いで車椅子のR君と一緒に来たKさんご一家と合流する。橋の脇のベンチのあるところで休憩していると、カワセミが飛んできて橋の下に止まった。その後、対岸の木の枝の中に入ったので、望遠鏡で捉え、数人の方に見ていただく。オレンジのおなかを見せ、その後、鮮やかな背中ブルーも見せてくれた。



ここからは、近くに民家のない自然豊かな土手の上や、サイクリングロードを歩く。知的障害のあるTさんが車椅子のK君を押してあげている。今回が3度目の参加になる知的障害のあるOさんは、時折しゃがんで疲れた様子。でも、



前日もそうだったが、こうなってからもかなりがんばれる。励まし励まし、お母さんと一緒にTさんやKさん、Oさんが一緒に歩いてくれた。



R君の車椅子を押すKさん

手繰川の橋のところで昼食にする。桜が咲いていて、気持ちの良いところだ。ここで記念写真を撮って出発する。葦原にはオオジュリンやホ

オジロがたくさんいる。R君のお兄さんのK君は、野鳥が好きなようだ。川に飛び込んだ黒い鳥は何ですかと聞いてくる。「カワウだよ」と答えたら、やっぱりそうだと、お母さんに報告していた。大きなアオサギが舞い、セッカの声もした。カイツブリも元気に鳴いていた。タンポポに止まったキタテハもいた。身近な自然を満喫して、バス道路に出た。ここで、車で帰る人や印旛沼のチューリップを見に行く人たちと別れ、船戸のバス停に行く。印旛沼方面の菜の花と桜がとてもきれいだった。

### コースタイム

もえぎの車庫バス停(10:20) ... 手繰川(12:30-13:20)...船戸バス停(13:55)

## 個人山行報告

### 槍ヶ岳(5月3日～5日)

参加者 会員(健常者2名)

5月3日

連休初日のため、電車の混雑が予想されたが、臨時のあずさに錦糸町から乗車したら、二人とも座ることができた。東京は雨だが、次第に雨も止み、松本に着いた頃は、すっかり晴れ上がっていた。

松本からバスで新穂高に向かうが、直通バスは夏だけとなってしまい、この時期は平湯で乗り換えとのこと。時間も30分遅くなったが、平湯乗り換えで行くことにする。バス停では、イギリスから来て留学している男性がいて、今回ご両親を呼んで、高山などを見物させてあげるといふ。日本語が上手い、好青年だった。

バスの車窓からは、すばらしい新緑が楽しめる。淡い緑と桜の花、山吹などが混在し、春らしいすばらしい風景だ。しかし、上がっていくに連れ、まだ芽吹きも迎えていない早春の風景

になってきた。

新穂高温泉から歩き始めるが、上高地からのルートと違って、2～3パーティーに会ったくらいで、とにかく静かなコースだ。いつもの山仲間アルプの山行と違って、男二人だから一層静かだ。足下には、ネコノメソウやエンゴサク、ショウジョウバカマが咲き、ふきのとうが芽を出したばかりで初々しい。

穂高平への近道を見落としてしまい、林道に沿って登る。穂高平の小屋は、私の10年前の地図では避難小屋となっているが、今は営業小屋となっているようだ。小屋の周囲は見晴が良く、南岳や中岳、涸沢岳、ジャンダルムが見え、振り返ると、懐かしい錫杖岳も見えていた。涸沢岳西尾根は、以前、冬に登ったことがあるので懐かしい。蒲田富士までは、ものすごい急傾斜だ。1200mの標高差を一気に登るのだからすごい。

蒲田川の右俣林道を歩いていく。左手には、笠ヶ岳方面のたおやかな山稜と、急峻な岩肌の

山腹が見えている。

白出小屋からは、山道となる。雪に覆われて、踏み後と赤テープを探しながら進む。ブドウ谷を過ぎると、河原を歩くようになる。所々、水流が出ている。右手に見えるチビ谷は、かわいい名前と裏腹に、極めて急峻で、大きなデブリ（雪崩の跡）があった。

滝谷の避難小屋は、樹林の中にひっそりと佇んでいる。この小屋に泊まるのは、26年ぶりだ。その時は、滝谷をつめて4尾根を登っている。懐かしい滝谷に出会えた。ここも大きなデブリが沢を埋めている。小屋には、ご夫婦がすでに泊まっていた。雪の溶けたところに水がしたり落ちていて、それを水源にする。早々に休むが、夜は暖かった。

5月4日

今日は、槍ヶ岳に登頂する日だ。軽く雑炊を食べ、4時40分に出発する。ここからは、完全に雪渓の上に行く。積雪は5m以上はあるだろう。開けた平らなところに出ると、そこが槍平だった。小屋はまだ営業していなかった。トイレを済ませ、奥丸山に向かう。すでに先行者があった。この登りは、出だしからものすごい急登だ。アイゼンを付けずに登っていたが、ナイフリッジも現れたので、途中で装着する。

一気に350mの標高差を稼ぎ、尾根に出たが、トレースは奥丸山には向かわず、そのまま千丈沢乗越に向かっている。私たちも、トレースに従って行くことにする。尾根上からは、穂高連峰の眺めがすばらしい。槍ヶ岳は山頂部分を少しだけ見せている。尾根の西側は樹林があるが、時々笠ヶ岳方面も見えている。飛騨沢を登っていく人たちも大勢見える。

いくつものアップダウンを繰り返し、千丈沢乗越への最後の登りにかかる。ここは、急な雪壁となっているが、以前登った北穂沢ほどではない。ここまでに6パーティーを追い越してしまい、千丈沢乗越には先頭で到着した。そのた

め、ここからは今日、最初のトレースを付けることになる。乗越からは、今まで見えなかった鷲羽岳など、北アルプスの名だたる山々が見えるようになる。豊富な残雪を抱き、真っ白だ。



中崎尾根上部を歩くYさん。(背景は笠ヶ岳)

所々夏道の出た西鎌尾根を登る。槍ヶ岳の山頂が近づき、山頂に人の姿がよく見えるようになってきた。岩場を避けた急な雪壁を登り、さらに雪の上を一登りで、槍ヶ岳山荘に到着する。もう私はヘトヘトのため、テントの中で少し休憩してから、山頂を目指すことにする。テントの中からは、槍ヶ岳がとてもよく見えた。贅沢な一時を過ごす。



槍ヶ岳(上部の雪渓の点々は人です)

槍ヶ岳山頂への道は、登りと下りが分かれている。危険な箇所は、下りの残雪の場所だ。ここから落ちたら、絶対に助からない。しかし、こんなところをストックで来る人もいるのだから、信じられなかった。山頂からは、360度の大展望。今日は、雲一つなく快晴だ。穂高連峰や乗鞍岳、笠ヶ岳、双六岳や黒部五郎岳、薬師岳、立山、鷲羽岳、針ノ木岳、鹿島槍ヶ岳、燕岳、常念岳、蝶ヶ岳など、北アルプスの山々

の眺望を楽しむ。北鎌尾根を登ってきたパーティーもいた。

穂先からの下りは、特に残雪の部分を慎重に下る。ここで落ちたら間違いなく、助からない。しかし、この危険なところを次々に登ってくる。1日に何百人の人が行き来するのだろうか？

山荘に下り、Yさんと登頂記念の乾杯をする。ベンチの隣にいた人は、新潟弁を話している。しかも、イカを焼いていたので「美味しそうですね」と声をかけたら、つまみにとたくさんご馳走してくださった。もう70歳近いご夫婦だということだった。

天気予報はこれから悪化するということだが、テントに入って少しすると、ポツポツと雨が降り出した。ただ、すぐに止み、霧に巻かれた状態で夜は更けていった。

5月5日

朝起きると、一面の乳白色。朝食を食べ、早々に下山にかかる。槍沢の雪渓は、朝の冷え込みもなく、グサグサに腐っている。それでも、急な斜面では、シリセードで一気に下る。下りは、このような残雪期ほど早く下れる。山荘から大曲まで50分。槍沢ロッジまで1時間25分だった。前回来た時は、大曲付近で沢が見えていたが、今回はロッジまで残雪で埋められていた。これが通常の姿だろう。

槍沢ロッジで、味のしない美味しい水を飲み、生き返る。ロッジからも雪の道を順調に下り、横尾で休憩。さらに、上高地を目指す。

横尾からの道は、作業用の車道を歩く。しかし、この道は、人の歩く、ザッザッザッという

味気ない音ばかりで、風情がない。夏も日が照るとカンカン照りで暑くてしょうがないだろう。途中から古い道に入って歩いた。

徳沢では、アオジが囀り、コマドリやミソサザイ、ゴジュウカラなどが盛んに囀っていた。2年前、ツキノワグマを見たあたりでは、カエルがたくさんいた。繁殖のために、全ての雌の背中に雄が乗っている。ひとりぼっちの雄が、ペアに襲いかかるが、蹴飛ばされてヒックリカエルだ。サルたちもたくさんいて、小さな子どもを抱いたかあさんザルも近くにいた。ニリンソウはまだ咲き始めたばかり。

上高地で、風呂に入り、汗を流す。雨が降りたり止んだりの状態になったが、バスに乗り込み、上高地を後にする。静かで、そして久しぶりに心肺機能をフル回転させた3日間でした。曇り空ではあったけど、麓の新緑が優しく迎えてくれたように感じられた。

#### コースタイム

- 5/3 新穂高温泉(13:40) ... 穂高平小屋(14:40-14:50) ... 白出沢出合(15:35-15:50)...滝谷避難小屋(17:20)
- 5/4 滝谷避難小屋(4:40)...槍平(5:30-5:45)...中崎尾根(7:10-7:30) ... 千丈沢乗越(9:50-10:05) ... 槍ヶ岳山荘(11:30-13:00)...槍ヶ岳(13:30-14:00)...槍ヶ岳山荘(14:35)
- 5/5 槍ヶ岳山荘(5:25) ... 槍沢ロッジ(6:50-7:10)...横尾(8:25-8:45)...上高地(11:35)

#### 各種連絡事項

##### 「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

2007年度の「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業が終了しました。この事業の千葉県の取り纏めを行っているNPO法人子ども

劇場千葉県センターから、山仲間アルプの活動が高く評価され、千葉まなびい実行委員会の中で、代表事例として取り上げていただきました。

障害の有無や年齢、性別を越え、多くの個性を持った人たちが集まって、登山やハイキング、山の上でのうどんづくりやお汁粉づくりなど、共に楽しむことが評価された理由です。みんな

### 地域新聞に掲載

八千代市とその周辺で発行されている「地域新聞(東葉版)」に、山仲間アルプのことが「共に聴く風のささやき」というタイトルで紹介されました。湯ノ丸山を登っている写真も掲載さ

### ちば民報に掲載

ちば民報社からミツバ岳の同行取材をしていただき、記事として取り上げていただきました。「共生の一つのあり方」というタイトルで、記事と共に山頂での写真などを掲載していただきました。同行してみて、記者の方は、「障

### 定年時代に掲載

朝日新聞に折り込みで入ってくる「定年時代(千葉版)」に、記事として取り上げていただきました。「障害者とともに山登り」というタイトルに副題「人間関係、対等の立場で」が付いています。水野さんと網干が取材を受け、金

### NPO法人子ども劇場千葉県センターの賛助会員になりました

一昨年のNPO活動発表会、昨年度の「学びあい、支えあい」地域活性化と、お世話になったNPO法人子ども劇場千葉県センターの賛

で築いてきたものが評価されたことは、大変うれしく思います。2008年度も協力団体として活動できるよう、現在申請中です。

れています。この記事が掲載されてから、10人くらいの方から問い合わせがあり、当法人の資料をお送りしました。

害者対ボランティアという関係から、一歩進んで、共に登山を楽しみながら、お互いを尊重し、真の友人関係を築いていくこと」という会の趣旨をかいま見ることができたと感想を述べてくださりました。

時山で山行中の写真と、取材当日撮影していただいた二人の写真が掲載されています。

この記事が掲載されてから10数人の方から問い合わせがあり、資料をお送りさせていただきました。

## 今後の計画

7月以降の詳細計画を作成しました。8月のキャンプや初秋の山にぜひご参加ください。なお、平日の涸沢と昨年中止になった四国の石鎚

山は、10月の実施ですが、事前準備の関係から、今回の詳細計画と共に、同封しました。こちらも早めにお申し込みください。

## 会員情報

### 新入会員のお知らせ

3月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。(敬称略)(賛助員から正会員に変更した方を含みます)

#### 正会員

14名(視覚障害者3名含む)

#### 未成年会員

1名

### 退会者のお知らせ

3月以降、残念ですが、以下の方が退会されました。

8名

## 編集後記

### ・理事長のつぶやき

山仲間アルプも平成15年4月に設立してから、まる5年が経過しました。設立時の正会員数が16人でしたが、5月末現在で84人となりました。ここまで来られたことを深く感謝申し上げます。今年になって、多くのところから声がかかり、記事として取り上げていただけるようになりましたが、これも会員一人一人の日頃の活動の大きな成果と思います。

世間では、楽しいだけではダメだという意見もあると思います。しかし、私たちの活動は決

して楽しいだけではないと自負しています。自分一人が楽しむのではなく、「共に楽しむ」ことには深い意味があると思います。「共に楽しむ」ことができ、はじめて人を幸せにすることも自分が幸せになることも、共にできる可能性が広がるはずです。そして、楽しいからこそ、前向きの気持ちも、思いやりの気持ちも湧いてくるのではないのでしょうか？

「共に生きる社会」という言葉がありますが、どのような社会が「共に生きる社会」なのかは、

それを定義することが非常に難しいのですが、「共に生きる社会」の実現のためには、少なくとも「共に楽しむ」ことができていなければ、ただの絵に描いた餅に過ぎないだろうと思います。

・次回発行予定は、9月です。

設立5周年を期に、みなさまと共に、登山やハイキングを通して、「共に楽しむ」すばらしさを自ら実感しつつ、社会に発信していきたいと考えていますので、今後とも、ご協力よろしくをお願いいたします。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで  
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208  
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝  
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

